

2025年2月21日
中四国物流研究会

『中四国物流研究会』取り組み報告について

2024年4月に発足した『中四国物流研究会』について、2024年度の取り組み報告と、2025年度の計画についてお知らせします。

1. 中四国物流研究会参加企業（2025年2月時点）

発足時の14社に、小売企業3社・物流企業1社が加わり、小売企業15社・物流企業3社の計18社で構成しています。

（小売企業）五十音順_15社

イオンリテール株式会社、株式会社イズミ、株式会社エースワン、株式会社キョーエイ、株式会社サニーマート、株式会社大創産業、DCM株式会社、株式会社天満屋ストア、株式会社仁科百貨店、株式会社ハローズ、株式会社フジ、株式会社マルイ、株式会社みしまや、両備ホールディングス株式会社 社名非公表1社

（物流企業）五十音順_3社

イオングローバルSCM株式会社、シモハナ物流株式会社、株式会社ムロオ

（オブザーバー）

中国経済産業局、四国経済産業局

2. 2024年度の取り組み概要

参加企業全体で目的・課題共有や取り組み事項の進捗確認を行う「全体会」と、中国エリアと四国エリアに分かれて、より具体的取り組みについて協議・検討を行う「エリア部会」のサイクルを回し活動してきました。

（全体会）

開催頻度：5月、8月、11月、2月の計4回

活動内容：エリア部会取り組み事項の進捗確認

各社の物流効率化好事例の共有

他の物流研究会や行政との情報共有 等

（エリア部会）

開催頻度：中国エリアと四国エリア部会に分かれ6月以降毎月開催、各9回

活動内容：参加企業の物流センターの相互視察

エリア別課題の共有と重点取り組み事項の選定

具体的取り組み事項の検討と実施 等

3. 取り組み事項及び協業の具体的事例 ※詳細は別紙資料参照

2024年度は主に中四国エリアにおける小売企業間での配送協業を中心に協議を進めてきました。各企業の空車・低積載車両の情報を共有、配送協業の可能性を仮説立案・検討し、企業の壁を越えた取り組みを推進しました。具体的取り組み事例は以下の通りです。

- ① 遠隔地店舗への配送協業（イズミ×イオンリテール・フジ）
- ② 戻り便を活用した配送協業（イオンリテール×エースワン）
- ③ マテハン回収における配送協業（ハローズ×イズミ×シモハナ物流）
- ④ 繁忙期における標準クレートの協業（天満屋ストア×サニーマート・フジ）

4. 2025年度の活動計画

2025年度は、引き続き以下の取り組み課題に重点的に取り組んでいきます。

- ① 店舗配送、幹線輸送・戻り便における小売企業間での配送協業
- ② 納品物流におけるメーカー・卸を含めた配送協業
- ③ 「改正物流効率化法」、「自主行動計画」に対する対応

『中四国物流研究会』は、今後も地域の生活を支える社会インフラとしての小売業を持続可能なものとすべく、物流を協調領域と捉え、企業の壁を越えて協業し、改善を進めてまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

『中四国物流研究会』事務局企業

（全体会事務局）

株式会社フジ 広報・IR部 TEL：082-535-8516

（エリア部会事務局）

株式会社イズミ 総務部広報課 TEL：082-264-2653

株式会社ハローズ 業務システム部 TEL：086-483-1011

《参考》『中四国物流研究会』の背景と主旨及び目的（発足時リリースより抜粋）

【発足の背景と主旨】

物流業界は「2024年問題」や「脱炭素」、その他持続可能な物流を維持するために業界全体で課題に取り組んでいます。

人口減少のスピードが速い中四国エリアにおいて、地域の生活を支える社会インフラとしての小売業を持続可能なものとすべく、「物流の2024年問題」等の課題に対して、物流を協調領域と捉え、企業の壁を越えて協業し、改善を進めていきます。

【発足の目的】

- ・「物流の2024年問題」に対して、個社での課題解決が困難な案件に対して、連携して解決を図る。
- ・各企業の店舗配送車両で、有効活用できる部分を模索し、配送効率を高める。
- ・物流センターまでの一次物流において、製配販で連携し、ムリ・ムラ・ムダの解決を図り、持続可能な納品物流体制を構築する。
- ・今後施行予定の法規制に対して、荷主企業として連携して対応する。
- ・物流の課題解決を通して、温室効果ガスの削減等の環境負荷低減を図る。
- ・若い意欲のある人材が働きたいと思える小売業・運送業へと変革していく。

別紙

中四国物流研究会 協業の具体的事例

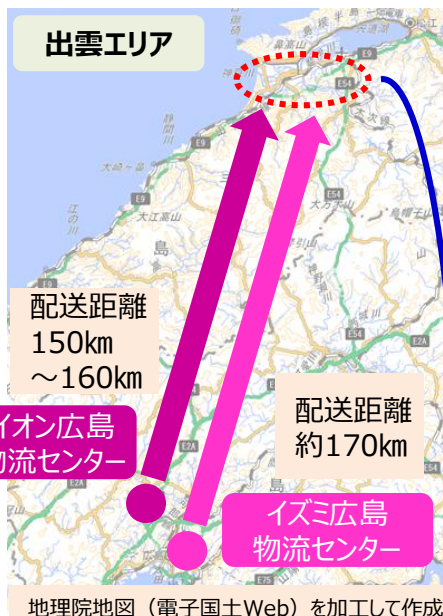
2025年2月21日
中四国物流研究会

《事例①》遠隔地店舗への配送協業（イズミ×イオンリテール・フジ）

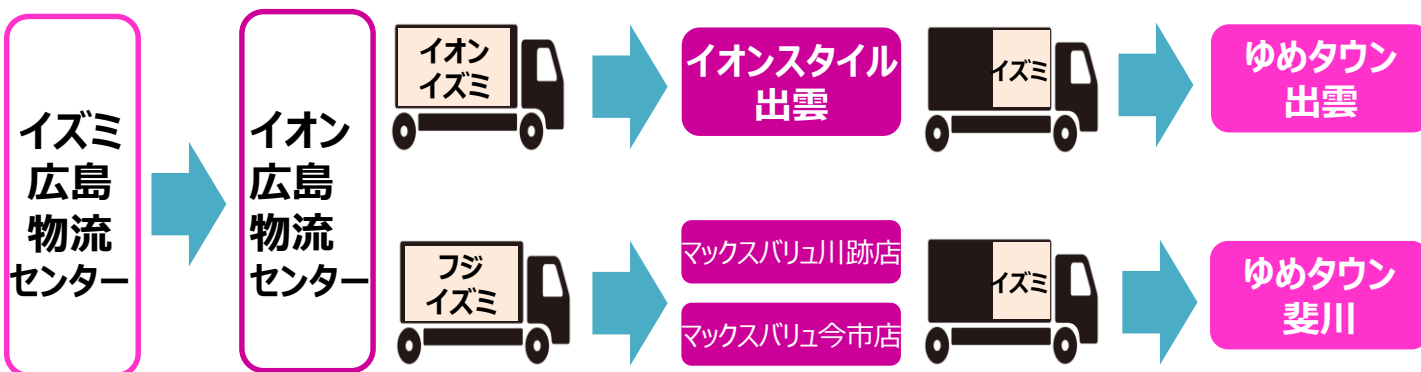
取り組み内容

広島市内から約170km離れている出雲エリアにおいてイズミ・イオンリテール・フジで配送を協業。イズミでトラックに積み切れない荷物をイオンリテール・フジのトラック空きスペースを活用し、同一車両で配送する事で遠距離便の車両を削減。2025年2月～週1回程度で実施。

【配送協業 実施前】



【配送協業 実施後】



出雲エリア店舗配置図（該当5店舗）



取り組み効果

| 項目 | 1回当り | 1回当り | 1年当り効果 |
|--------|----------|--------|------------|
| 納品車両数 | 3台 | 2台 | 52台減 |
| 走行距離 | 約1,020km | 約680km | 約17,680km減 |
| CO2排出量 | 約0.66t | 約0.44t | 約11.58t減※ |

※杉1本が1年間で吸収するCO2量に換算すると約1,300本分に相当。

《事例②》戻り便を活用した配送協業（イオンリテール×エースワン）

取り組み内容 香川県・高知県間を各企業で店舗配送し、その帰りは荷物が無い状態でセンターへ帰着。エースワン納品車両の戻り便を有効活用し、イオンリテール高知エリアの店舗配送を実施。

【配送協業 実施前】



【配送協業 実施後】 2024年11月～



取り組み効果

| 項目 | 1日当り |
|--------|--------|
| 納品車両数 | 2台 |
| 走行距離 | 約505km |
| CO2排出量 | 約0.33t |



| 1日当り | 1年当り効果 |
|--------|------------|
| 1台 | 365台減 |
| 約291km | 約78,110km減 |
| 約0.19t | 約51.16t減※ |

※杉1本が1年間で吸収するCO2量に換算すると約5,800本分に相当。 - 2 -

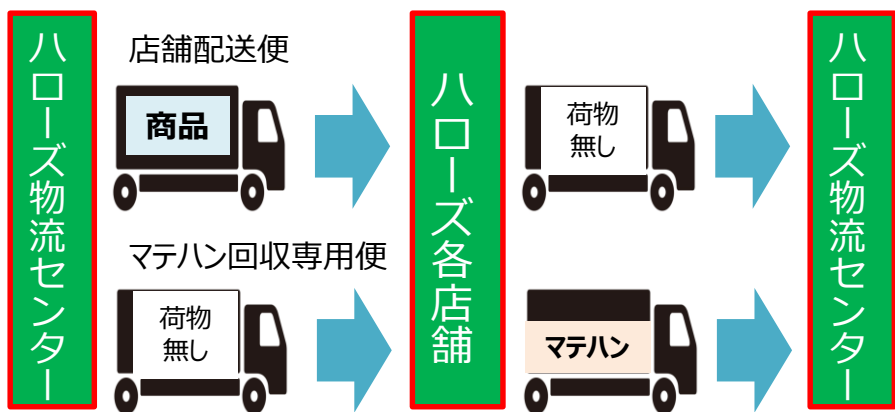
《事例③》マテハン回収における配送協業（ハローズ×イズミ×シモハナ物流）

取り組み内容

ハローズは、イズミ・シモハナ物流と協業し、イズミの納品車両の戻り便やシモハナ物流の車両の空きスペース活用することで、マテハン回収に関わる走行距離を削減。

【配送協業 実施前】 マテハン回収専用便

通常、店舗へ配送した車両で、マテハンを回収し、物流センターに戻しているが、ハローズでは、夜間の騒音に配慮して、マテハン回収を行わない店舗があり、マテハン回収専用便として別車両を手配して、回収を実施。



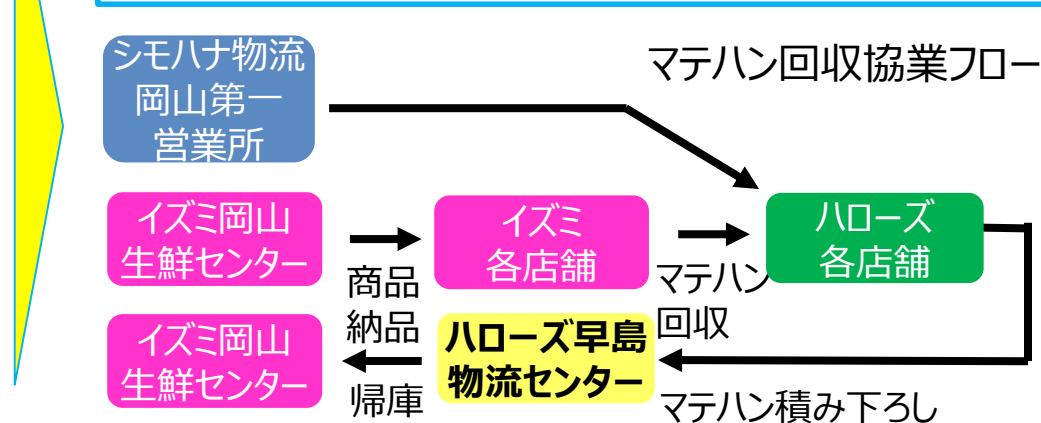
【マテハンとは】
店舗配送時に使用する6輪台車（カートラック）や商品の納品で使用する容器（クレート）



【配送協業 実施後】2024年12月～

ハローズ・イズミ・シモハナ物流との配送協業によりハローズのマテハン回収専用便の一部は運行不要に。2024年12月に協業を開始し、2025年2月現在で5店舗に拡大。

※シモハナ物流岡山第一営業所はイズミ岡山生鮮センターの業務委託先



マテハン回収協業実施店舗・センター配置図

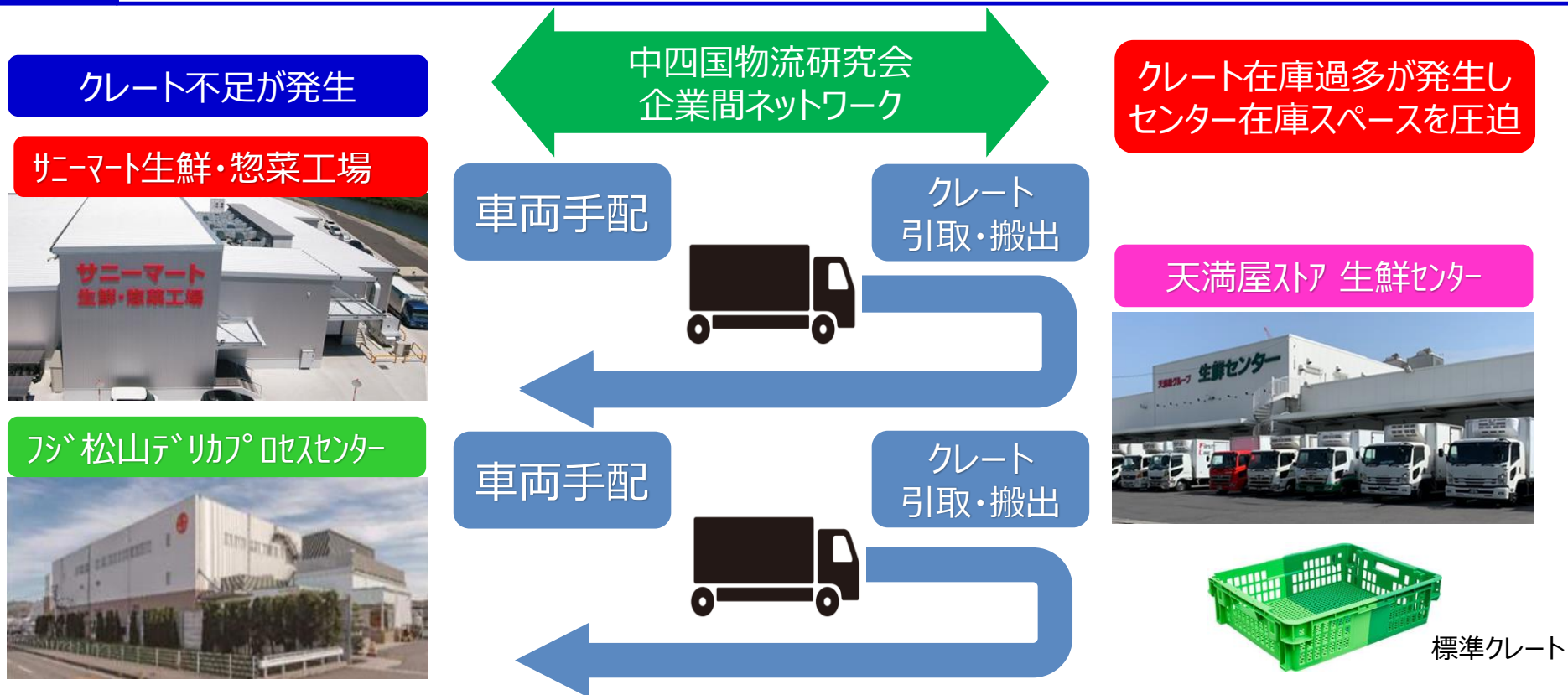


地理院地図（電子国土Web）を加工して作成

《事例④》繁忙期における標準クレートの協業（天満屋ストア×サニーマート・フジ）

取り組み内容

天満屋ストア・サニーマート・フジは中四国物流研究会での繋がりを活かし、繁忙期（2024年12月）に標準クレートの在庫量の情報交換を行い、在庫過多企業から在庫不足企業へ移送。
各社のクレート不足やクレート過多による在庫スペース圧迫を解消した。



【標準クレートとは】

省資源化と物流効率の改善を目指し、物流クレート標準化協議会が規格を統一した商品の納品で使用するプラスチック製の容器。2024年3月現在、全国の小売企業27社の55拠点の物流センターで導入されている。